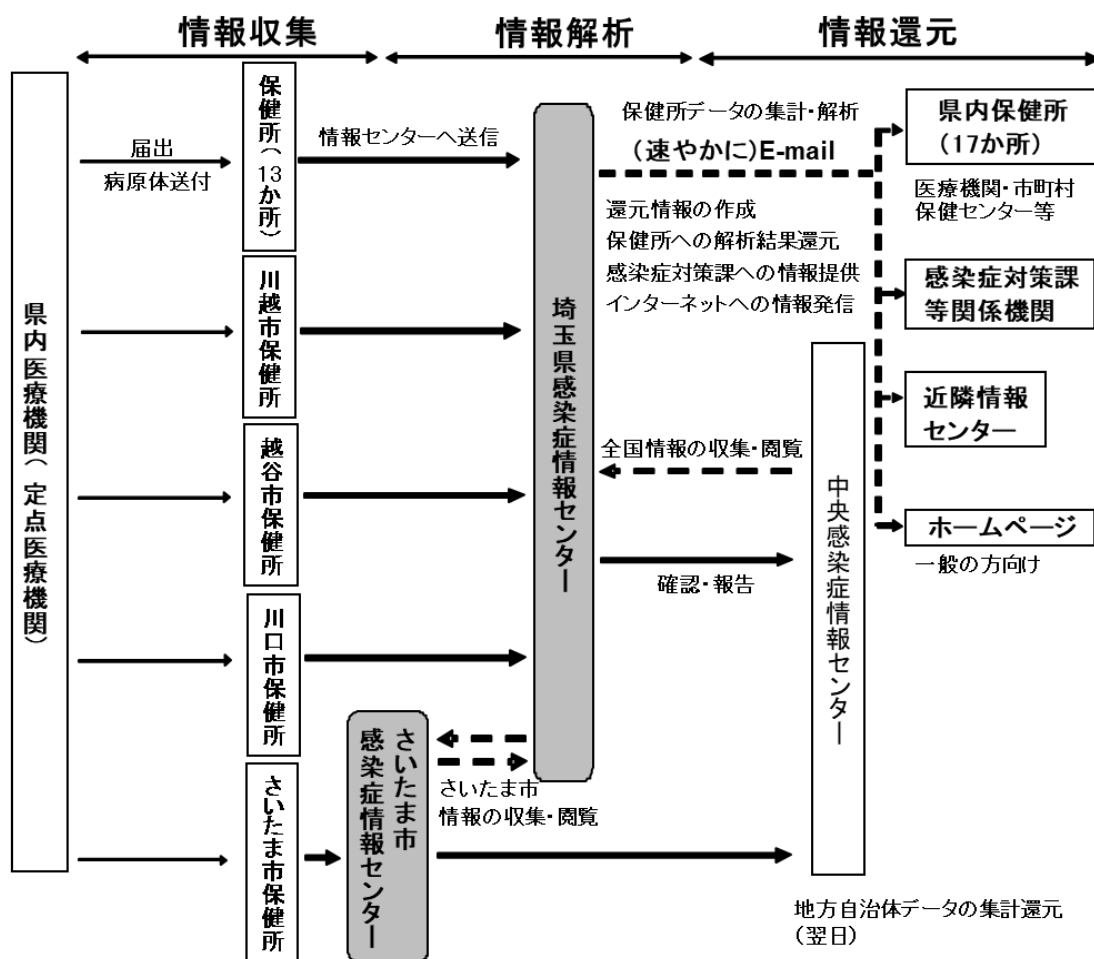


II 事業報告

ここでは、感染症情報センターが行った事業について紹介する。感染症発生動向調査のように通常年単位で報告する事業は、年単位の集計結果を記載した。

1 感染症発生動向調査

埼玉県では、感染症法に基づき、感染症に関する情報の収集及び公表を目的とした感染症サーベイランスを感染症発生動向調査事業として実施している。本事業は、その実施要綱に基づき、地方自治体及び医師等医療関係者の協力と国との連携により事業体制が構築されている。当センターは、県内に設置されている政令指定都市及び保健所設置市の協力のもと、基幹情報センターとして県内の感染症情報の収集及び公表を行っている(図Ⅱ-1-1)。



図Ⅱ-1-1 感染症発生動向調査による情報(患者・病原体)の流れ

本資料では、全数把握疾患は診断日が令和6年1月1日から12月31日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は令和6年第1週(令和6年1月1日～令和6年1月7日)から第52週(令和6年12月23日～令和6年12月29日)まで、月単位報告疾患は2024年1月から12月までの報告を集計し、県内の動向をまとめた。

また、全数把握疾患の病原体については、令和6年1月1日から12月31日に採取され、県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。

なお、令和6年の発生動向調査では、調査期間中に関連する法令及び省令等の改正はなかった。

(1) 患者情報

ア 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、一類から四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は診断後直ちに、五類感染症(侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻疹は診断後直ちに届出)は7日以内に診断した医師から届出られる疾患である。

(ア) 一類・二類感染症

一類感染症は、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者が届出の対象となるが、令和6年は届出がなかった(表Ⅱ-1-1)。

表Ⅱ-1-1 一類・二類・三類感染症 届出数

	疾 患 名	埼 玉 県		
		令和6年	令和5年	令和4年
一類	エボラ出血熱	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－
	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－
	ペスト	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－
	結核	728	762	757
	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群(SARS)	－	－	－
	中東呼吸器症候群(MARS)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
三類	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－
	コレラ	－	－	－
	細菌性赤痢	2	9	－
	腸管出血性大腸菌感染症	183	167	144
	腸チフス	2	3	1
	パラチフス	－	1	－

(－:0)

二類感染症は、結核 728 人の届出があり、その他の二類感染症の届出はなかった(表Ⅱ-1-1)。

結核は、男性 429 人、女性 299 人の計 728 人の届出があり、前年の 762 人と比べ減少した。類型別では患者 472 人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)254 人、疑似症患者 2 人の届出があり、患者は前年の 523 人と比べ減少した。

男性では患者が 292 人、無症状病原体保有者が 136 人、疑似症患者が 1 人であった。男性は 60 歳以上が 61.3%で、80 歳代 89 人、70 歳代 85 人の順に多かった。女性では患者が 180 人、無症状病原体保有者が 118 人、疑似症患者 1 人であった。女性は 60 歳以上が 59.9%で、最も多い年代は 80 歳代の 74 人であった(表Ⅱ-1-2)。

表Ⅱ-1-2 結核 年齢階級別届出数(令和 6 年)

年齢階級	男性				女性				総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	
10歳未満	－	5	－	5	－	8	－	8	13
10歳代	1	4	－	5	－	3	－	3	8
20歳代	25	18	－	43	19	14	－	33	76
30歳代	17	14	－	31	8	11	－	19	50
40歳代	9	15	－	24	10	18	－	28	52
50歳代	42	16	－	58	17	12	－	29	87
60歳代	42	22	－	64	8	10	－	18	82
70歳代	56	29	－	85	28	24	－	52	137
80歳代	78	11	－	89	57	17	－	74	163
90歳以上	22	2	1	25	33	1	1	35	60
合計	292	136	1	429	180	118	1	299	728
割合	40.1%	18.7%	0.1%	58.9%	24.7%	16.2%	0.1%	41.1%	100.0%

(-:0)

(イ) 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢 2 人、腸管出血性大腸菌感染症 183 人、腸チフス 2 人の計 187 人の届出があった(表Ⅱ-1-1)。

細菌性赤痢は 9 月に 20 歳代男性及び 60 歳代女性の計 2 人の届出があり、前年の 9 人から減少した。前者は無症状病原体保有者で、菌種は *Shigella flexneri*(B 群)であった。後者は患者で、菌種は *Shigella sonnei*(D 群)であった。いずれも診断方法は、便からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は、前者がバングラデシュ、後者が国内であった。

腸管出血性大腸菌感染症は、男性 87 人、女性 96 人の計 183 人の届出があり、前年の 167 人より増加した。症例の年齢は 1 歳から 80 歳代まで幅広く分布し、年齢階級別では、20 歳代が 57 人と最も多かった。過去 5 年と比較すると、10 歳未満の届出は少なく、20 歳代の届出は多かった。類型別では、患者 113 人、無症状病原体保有者 70 人で、前年と比べて患者は同水準であり、無症状病原体保有者は増加した。月別の届出数は 8 月が最も多く 23 件であった。例年の流行

期に該当する 6 月～9 月の届出数は 79 人であり、前年の 101 人と比べて減少したが、1～5 月及び 10～12 月の届出数は 104 人で、前年の 66 人と比べて大きく増加した。患者の O 血清型は、O157 が 78 人 (OUT 同時検出 1 人を含む。) と最も多く、次いで多かったのは O26 の 12 人であり、いずれも前年と比べて同水準であった。その他の血清型は O103 及び O111 が各 5 人、O115 が 2 人、O8、O55、O76 及び O128 が各 1 人、OUT が 7 人であった。なお、無症状病原体保有者の O 血清型は、O157 が 21 人、O26 が 2 人で、いずれも前年の届出数を下回った。その他の血清型は、O91、O115 及び O128 が各 4 人、O8 (O25 同時検出 1 人を含む。) 及び O103 が各 3 人、O55 が 2 人、O111、O121、O145、O168、O178 及び O181 が各 1 人、OUT が 20 人、不明が 1 人であった。その他の血清型の合計は 47 人で、前年の 21 人から大きく増加した。溶血性尿毒症症候群 (HUS) 患者は、10 歳代の女性 1 人で確認された。検出された大腸菌の O 血清型及び毒素型は O157 : H7 VT2 であった (表 II-1-3)。

表 II-1-3 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数 (令和 6 年)

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	6	4	2	6	—	2	—	4
10歳代	23	14	9	17	6	13*	5	5
20歳代	57	27	30	35	22	34	5	18
30歳代	29	12	17	17	12	15	2	12
40歳代	23	11	12	8	15	9	—	14
50歳代	20	6	14	8	12	9	1	10
60歳代	15	7	8	12	3	8	1	6
70歳代	6	3	3	6	—	6	—	—
80歳代	4	3	1	4	—	3	—	1
90歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	183	87	96	113	70	99	14	70
割合	100.0%	47.5%	52.5%	61.7%	38.3%	54.1%	7.7%	38.3%

(—:0)

*O157・OUT同時検出1名を含む

腸チフスは、20 歳代の男性及び 10 歳未満の女性、計 2 人の届出があった。類型は前者が無症状病原体保有者で、後者は患者であった。診断方法はいずれも分離・同定による病原体の検出であり、検体は前者が便、後者が血液であった。推定感染地域はいずれも国外で、前者はインドネシア、後者はバングラデシュであった。なお、後者は現地で診断された症例であった。

(ウ) 四類感染症

四類感染症は、E 型肝炎 39 人、A 型肝炎 4 人、つつが虫病 3 人、デング熱 11

人、日本紅斑熱 1 人、日本脳炎 1 人、ブルセラ症 1 人、マラリア 3 人、ライム病 1 人、類鼻疽 1 人、レジオネラ症 141 人、レプトスピラ症 1 人の計 207 人であった(表Ⅱ-1-4)。

表Ⅱ-1-4 四類感染症 届出数

疾 患 名	埼玉県			疾 患 名	埼玉県		
	令和6年	令和5年	令和4年		令和6年	令和5年	令和4年
E型肝炎	39	43	35	東部ウマ脳炎	-	-	-
ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-
A型肝炎	4	3	3	ニパウイルス感染症	-	-	-
エキノコックス症	-	-	-	日本紅斑熱	1	-	-
エムボックス	-	5	-	日本脳炎	1	-	-
黄熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
オウム病	-	1	1	Bウイルス病	-	-	-
オムスク出血熱	-	-	-	鼻疽	-	-	-
回帰熱	-	-	-	ブルセラ症	1	-	-
キャサナル森林病	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
Q熱	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
狂犬病	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
コクシジオイデス症	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-
ジカウイルス感染症	-	-	-	マラリア	3	2	2
重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	野兔病	-	-	-
腎症候性出血熱	-	-	-	ライム病	1	1	-
西部ウマ脳炎	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
ダニ媒介性脳炎	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
炭疽	-	-	-	類鼻疽	1	-	-
チクングニア熱	-	-	-	レジオネラ症	141	112	96
つつが虫病	3	3	-	レプトスピラ症	1	-	-
デング熱	11	9	2	ロッキーマウンテン紅斑熱	-	-	-

(-:0)

E型肝炎は、男性 31 人、女性 8 人の計 39 人の届出があり、前年の 43 人を下回った。症例の年齢は 30 歳代から 80 歳代に分布し、50 歳代及び 60 歳代が各 12 人で多かった。類型は患者が 37 人、無症状病原体保有者が 2 人で、診断方法は血清 IgA 抗体の検出のみが 21 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgA 抗体の検出が 15 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 2 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 1 人であった。推定感染経路は経口感染 16 人、不明 23 人で、推定感染地域は国内 29 人、不明 10 人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の 2 人のうち 1 人は献血により探知された症例であった。

A型肝炎は、男性 2 人、女性 2 人の計 4 人の届出があった。症例の年齢は 20 歳代、50 歳代、60 歳代及び 80 歳代が各 1 人で、全症例で類型は患者であった。診断方法は血清 IgM 抗体の検出のみが 3 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 1 人であった。推定感染経路は、経口感染が 2 人、不明が 2 人で、推定感染地域は国内が 3 人、不明が 1 人であった。また、ワクチン接種歴は、無しが 3 人、不明が 1 人であった。

つつが虫病は、11月に50歳代の男性2人、12月に50歳代の男性1人の計3人の届出があり、前年と同数であった。診断方法は、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出が1人、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出のみが1人、間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出のみが1人であった。推定感染地域はすべて国内(県外)であった。

デング熱は、男性8人、女性3人の計11人の届出があり、前年の9人を上回った。病型は全症例でデング熱であり、症例の年齢は9歳から40歳代に分布した。診断方法は、血液(血清又は全血)での非構造蛋白抗原(NS1)の検出のみが5人、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出のみが4人、血液(血清又は全血)での非構造蛋白抗原(NS1)の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が2人であった。推定感染地域は全症例が国外であり、インドネシア及びフィリピンが各3人、アラブ首長国連邦、インド及びスリランカが各1人、複数の感染地域が推定される者として、インドネシア又はマレーシア、インドネシア又はフィリピンが各1人であった。

令和2年以降届出がなかった日本紅斑熱は、1月に50歳代男性1人の届出があった。診断方法は、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法によるペア血清での抗体価の有意上昇であった。推定感染原因は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域は国内(県外)であった。

日本脳炎は、10月に60歳代女性1人の届出があり、埼玉県としては感染症法の施行(平成11年)以降、初の届出となった。類型は患者で、診断方法はペア血清での赤血球凝集阻止抗体の検出であった。推定感染原因は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域は国内(詳細不明)であった。

平成30年以降届出がなかったブルセラ症は、6月に50歳代女性1人の届出があった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出であり、推定感染地域は中華人民共和国であった。

マラリアは、6月に50歳代の男性、7月に30歳代の男性、9月に30歳代の男性の計3人の届出があった。病型は熱帯熱が2人、三日熱が1人であった。診断方法は、血液検体の鏡検による病原体の検出及び血液検体の核酸増幅法による病原体遺伝子の検出が2人、血液検体の鏡検による病原体の検出のみが1人であった。推定感染地域はギニア、ナイジェリア及びパキスタンが各1人であった。

過去10年で2人(平成26年及び令和5年で各1人)の届出があったライム病は、5月に30歳代の女性1人の報告があった。診断方法は検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及びWestern Blot法による血清抗体の検出で、推定感染地域はルーマニアであった。

令和2年以降届出がなかった類鼻疽は、7月に50歳代の男性1人の報告があった。診断方法は分離・同定による病原体の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出で、検体はいずれも喀痰及び血液であった。推定感染原因は塵埃感染で、推定感染地域はベトナムであった。

レジオネラ症は、男性116人、女性25人の計141人の届出があり、前年の112人と比較して増加した。症例の年齢は40歳代から90歳代に分布し、80歳代が36人、70歳代が35人、60歳代が33人の順で多かった。類型は患者139人、無症状病原体保有者2人で、患者の病型別では肺炎型133人、ポンティアック熱型6人であった。年間を通して届出はあったが、7月が18人と最も多かった。診断方法は、酵素抗体法又はイムノクロマト法による尿中の病原体抗原の検出が137人、検体から直接の病原遺伝子の検出が27人、分離・同定による病原体の検出が19人であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内127人、国外4人、不明10人で、国内感染例のうち県内は91人であった。

令和4年以降届出のなかったレプトスピラ症は、9月に70歳代の男性1人の届出があった。診断方法は、検体からの直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及びペア血清での顕微鏡下凝集試験法(MAT)による血清抗体の検出であった。推定感染経路は水系感染又は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域は国内(詳細不明)であった。

(エ) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢26人、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)17人、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症104人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)1人、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)28人、クロイツフェルト・ヤコブ病2人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症108人、後天性免疫不全症候群33人、侵襲性インフルエンザ菌感染症30人、侵襲性髄膜炎菌感染症1人、侵襲性肺炎球菌感染症98人、水痘(入院例に限る。)5人、梅毒477人、播種性クリプトコックス症8人、破傷風2人、百日咳174人、風しん1人、麻しん8人、薬剤耐性アシネトバクター感染症1人の計1,124人であった(表Ⅱ-1-5)。

アメーバ赤痢は、男性22人、女性4人、計26人の届出があり、前年の28人を下回った。症例の年齢は20歳代から80歳代に分布し、40歳代、50歳代及び60歳代が各7人、30歳代が2人、20歳代、70歳代及び80歳代が各1人であった。病型別では腸管アメーバ症が24人、腸管外アメーバ症が2人であった。診断方法は、すべて鏡検による病原体の検出で、検体は24人が大腸粘膜組織及び便粘液、2人が膿瘍液であった。推定感染経路は経口感染が6人、性的接触が3人、不明が17人で、性的接触の内訳は異性間が2人、同性間が1人であった。推定感染地域は、国内16人、国外4人、不明6人であった。

表Ⅱ-1-5 五類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和6年	令和5年	令和4年		令和6年	令和5年	令和4年
アメーバ赤痢	26	28	24	侵襲性肺炎球菌感染症	98	81	47
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	17	7	6	水痘(入院例に限る)	5	13	10
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	104	71	72	先天性風しん症候群	-	-	-
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	1	6	1	梅毒	477	468	469
急性脳炎	28	39	35	播種性クリプトコックス症	8	7	10
クリプトスポリジウム症	-	-	-	破傷風	2	4	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	9	7	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	108	64	41	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	1
後天性免疫不全症候群	33	32	27	百日咳	174	79	13
ジアルジア症	-	3	-	風しん	1	1	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症	30	9	4	麻しん	8	-	-
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	2	1	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	1	1

(-:0)

ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)は、B型肝炎 14 人、その他のウイルス性肝炎 3 人の計 17 人の届出があり、前年の 7 人から大きく増加した。C型肝炎の届出はなかった。

B型肝炎は 10 歳代から 50 歳代の男性 14 人の届出があった。診断方法はいずれも血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。ウイルスの遺伝子型は A 型が 5 人、C 型が 3 人、不明が 6 人であった。推定感染経路は性的接触が 7 人、針等の鋭利なものの刺入が 1 人、その他が 1 人、不明が 5 人で、性的接触の内訳は異性間が 5 人、同性間が 2 人であった。また、推定感染地域は国内が 11 人、不明が 3 人であった。その他のウイルス性肝炎は、エプスタイン・バーウイルス(EBV)とサイトメガロウイルスによる肝炎が男性 10 歳代 1 人、EBV による肝炎が女性 20 歳代 1 人の届出があった。推定感染経路は前者が性的接触(異性間)、後者が不明で、推定感染地域はいずれも国内(県内)であった。また、エコーウイルス 11 型による肝炎が男性 10 歳未満 1 人の届出があった。推定感染経路は不明で、感染推定地域は国内(県内)であった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は、男性 56 人、女性 48 人の計 104 人の届出があり、前年の 71 人から増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 90 人で全体の 86.5%であった。症状は尿路感染症が 57 人、菌血症・敗血症が 28 人、肺炎が 19 人、胆嚢炎・胆管炎が 14 人、腸炎・腹膜炎が 7 人であった(重複例有り)。検査検体は、尿が 51 検体、血液が 23 検体、喀痰が 16 検体(その他の検体(吸引痰)1 件を含む)の順に多かった(重複例有り)。分離された菌は多い順に *Enterobacter cloacae* complex が 42 株、*Klebsiella aerogenes* が 29 株、*Klebsiella pneumoniae* が 10 株、*Escherichia coli* が 8 株、*Citrobacter freundii* が 6 株、*Serratia marcescens* が 5 株、*Klebsiella oxytoca* 及び *Morganella morganii* が各 2 株、*Citrobacter koseri*、*Kluyvera intermedia* 及び *Providencia stuartii* が各 1 株報告された(重複例有り)。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)は、9月に男性1-4歳1人の届出があり、前年の6人から減少した。病原体は不明で、ポリオワクチン接種歴は有りであった。推定感染経路は不明、推定感染地域は国内(県内)であった。

急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)は、男性15人、女性13人の計28人の届出があり、前年の39人より減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布し、1-4歳の13人が最も多かった。病原体別では、インフルエンザウイルスB型が5人、マイコプラズマが3人、インフルエンザウイルスA型が2人であった。その他は、RSウイルス、新型コロナウイルス及びパラインフルエンザウイルスが各1人であった。病原体が特定されなかったのは15人であった。年間を通じて発生がみられたが、インフルエンザウイルスによるものは冬季を中心に発生がみられた。推定感染地域は、国内(県内)が26人、不明が2人であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)は、男性1人、女性1人の計2人の届出があり、前年の9人から減少した。いずれも年齢は70歳代、病型は古典的CJD、診断の確実度はほぼ確実であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性60人、女性48人の計108人の届出があり、前年の64人から大きく増加し、平成11年の感染症法施行以降最多となった。症例の年齢は30歳代から90歳代に分布(前年は1歳から90歳代に分布)し、60歳以上が80人(全体の74.1%)で、前年(36人、56.3%)より増加した。診断方法はいずれも分離同定による病原体の検出で、血清群はA群が69人、B群が15人、C群が1人、G群が23人であった。血清群別の比較では、令和6年は過去5年と比較して、前年と同様にA群の割合が多かった。A群の69人のうちT型別検査が行われた66人のT型別は、1型が32人、12型が7人、B3264型が4人、4型及び9型が各1人、UTが20人、14/49型とUTの同時検出が1人であった。同時検出例では、壊死軟部組織から14/49型が、血液からUTが検出された。推定される感染経路は創傷感染が48人、飛沫・飛沫核感染が5人、接触感染が2人、その他が10人、不明が44人(重複例有り)で、推定感染地域は国内が97人(県内91人)、不明が11人であった。また、108人の届出のうち、届出時点で19人の死亡が確認された。死亡者は40歳代以上の各年代でみられた(表Ⅱ-1-6)。

表Ⅱ-1-6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
年齢階級別届出数と分離株の血清群(令和6年)

年齢階級	総数	男性	女性	血清群				届出時 死亡数
				A群	B群	C群	G群	
10歳未満	－	－	－	－	－	－	－	－
10歳代	－	－	－	－	－	－	－	－
20歳代	－	－	－	－	－	－	－	－
30歳代	7	2	5	7	－	－	－	－
40歳代	8	4	4	5	2	－	1	1
50歳代	13	9	4	7	3	1	2	3
60歳代	22	15	7	19	2	－	1	4
70歳代	22	11	11	16	2	－	4	5
80歳代	27	15	12	11	5	－	11	4
90歳以上	9	4	5	4	1	－	4	2
合計	108	60	48	69	15	1	23	19
割合	100.0%	55.6%	44.4%	63.9%	13.9%	0.9%	21.3%	17.6%

(-0)

後天性免疫不全症候群は、男性 33 人(前年 32 人)の届出があった。病型別では、A I D S は 16 人、無症状病原体保有者は 14 人、その他は 3 人であった。症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し、30 歳代が 10 人、40 歳代が 9 人、50 歳代が 6 人の順に多かった。A I D S の 16 人の指標疾患の内訳は、ニューモシスティス肺炎が 11 人、サイトメガロウイルス感染症(生後 1 か月以後で、肺、脾、リンパ節以外)及び H I V 消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)が各 2 人、カポジ肉腫、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)、クリプトコッカス症(肺以外)、非ホジキンリンパ腫及び H I V 脳症(認知症又は亜急性脳炎)が各 1 人であった(重複例有り)。推定される感染経路では性的接触が 28 人、その他が 1 人、不明が 4 人で、性的接触の内訳は同性間が 17 人、異性間が 4 人、異性・同性間が 2 人、異性・同性不明が 5 人であった(表Ⅱ-1-7)。また、病型別の年齢分布では、A I D S は 20 歳代から 60 歳代に分布し、30 歳代が 5 人で最も多く、次いで 40 歳代及び 50 歳代が各 4 人であった。無症状病原体保有者は 20 歳代から 70 歳代に分布し、40 歳代が 5 人、30 歳代が 4 人の順に多かった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男性 17 人、女性 13 人の計 30 人の届出があり、前年の 9 人から大きく増加し、全数把握対象疾患に指定された平成 25 年以降最多となった。症例は 0 歳から 90 歳以上に分布し、80 歳代が 8 人、1-4 歳代及び 70 歳代が各 5 人、60 歳代が 4 人の順に多かった。診断方法は、すべて分離・同定による病原体の検出によるもので、全症例で血液から検出され、その他、喀痰 2 例、髄液 1 例からも検出されていた(重複例有り)。ワクチン接種歴は、有りが 4 人、無しが 9 人、不明が 17 人であった。推定感染経路は飛沫・

飛沫核感染が 7 人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染及びその他が各 1 人、不明が 21 人であった。推定感染地域は国内が 27 人(県内 24 人)、不明が 3 人であった。

表Ⅱ-1-7 後天性免疫不全症候群性別内訳（令和 6 年）

		男性 n=33	
		届出数	割合
年齢階級	10歳未満	－	0.0%
	10歳代	－	0.0%
	20歳代	4	18.8%
	30歳代	10	34.4%
	40歳代	9	21.9%
	50歳代	6	18.8%
	60歳代	3	3.1%
	70歳代	1	3.1%
	80歳以上	－	0.0%
病型	AIDS	16	53.1%
	その他	3	3.1%
	無症状病原体保有者	14	43.8%
推定感染地域	日本国内	20	81.3%
	その他(国外)	4	3.1%
	不明	9	15.6%
国籍	日本	24	84.4%
	その他	6	12.5%
	不明	3	3.1%
推定感染経路	異性間	4	12.1%
	同性間	17	51.5%
	異性・同性間	2	6.1%
	異性・同性不明	5	15.2%
	その他	1	3.0%
	不明	4	12.1%

(届出数－:0)

侵襲性髄膜炎菌感染症は、5 月に男性 50 歳代 1 人の届出があった。診断方法は、血液からの分離・同定による病原体の検出で、血清群は Y 群と W-135 群の同時検出であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、推定感染地域は国内(県内)であった。ワクチン接種歴は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は、男性 51 人、女性 47 人の計 98 人の届出があり、前年の 81 人を上回った。症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布し、70 歳代が 25 人、80 歳代が 17 人、60 歳代が 14 人の順に多かった。10 歳未満では 1-4 歳が 11 人、5-9 歳が 4 人、0 歳が 1 人の報告があった。診断方法は、分離同定による病原体の検出が 97 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及

びイムノクロマト法による病原体抗原の検出が各 4 人であった(重複例有り)。症状は発熱が 86 人(87.8%)、菌血症が 84 人(85.7%)、肺炎が 41 人(41.8%)に認められた。ワクチン接種歴は、10 歳未満では、有りが 12 人、無しが 1 人、不明が 3 人で、10 歳代以上では、有りが 8 人、無しが 28 人、不明が 46 人であった。推定感染地域は国内が 78 人(県内 67 人)、不明が 20 人であった。

水痘(入院例に限る)は、男性 2 人、女性 3 人の計 5 人の届出があり、前年の 13 人から減少した。症例の年齢は 0 歳から 30 歳代に分布した。病型別では臨床診断例が 3 例、検査診断例が 2 例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出が各 1 人であった。ワクチン接種歴は無しが 3 人、不明が 2 人であった。感染経路は、接触感染が 2 人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染が 1 人、不明 2 人で、推定感染地域は国内(県内)が 4 人、不明が 1 人であった。

梅毒は、男性 345 人、女性 132 人の計 477 人の届出があり、前年の 468 人と同水準であった(表Ⅱ-1-8)。性比(男/女)は 2.61 で、前年の 2.39 より高くなった。症例の年齢は、男性では 10 歳代から 90 歳代に分布し、40 歳代の 84 人、30 歳代の 82 人の順に多かった。女性では 0 歳から 80 歳代に分布し、20 歳代が 66 人で最も多く 50.0%であった。前年に比べ、男性では 60 歳代で減少したものの、40 歳代では増加した。女性では 30 歳代及び 40 歳代で減少したものの、10 歳代では増加した。病型は、男性では早期顕症梅毒(I 期)が 196 人、早期顕症梅毒(Ⅱ期)が 73 人、晩期顕症梅毒が 4 人、無症状病原体保有者が 72 人で、女性では早期顕症梅毒(I 期)が 31 人、早期顕症梅毒(Ⅱ期)が 55 人、晩期顕症梅毒が 2 人、先天梅毒が 2 人、無症状病原体保有者が 42 人であった。なお、先天梅毒は平成 27 年及び平成 28 年に各 1 人、平成 30 年に 2 人、令和 2 年に 5 人、令和 3 年及び令和 4 年に各 2 人、令和 5 年に 1 人、令和 6 年に 2 人と継続的に届け出がある。推定感染経路は、男性では性的接触が 307 人、不明が 38 人であった。女性では性的接触が 112 人、母子感染が 2 人、針などの刺入が 1 人、不明が 17 人であった。性的接触の内訳では、異性間が男女共に最も多く、男性が 257 人、女性が 100 人であった。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の 47.5%、従事歴が女性の 24.2%に認められ、女性の性風俗産業の従事歴の割合は前年の 18.1%から増加した。H I V 感染症との合併は男性 10 人、女性 1 人、妊娠は女性 16 人に認められた。また、推定感染地域は国内が 406 人、国外が 3 人、不明が 68 人であった。

表Ⅱ-1-8 梅毒性別内訳（令和 6 年）

		男性 n=345		女性 n=132		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	－	0.0%	2	1.5%	
	10歳代	11	3.2%	13	9.8%	
	20歳代	61	17.7%	66	50.0%	
	30歳代	82	23.8%	21	15.9%	
	40歳代	84	24.3%	19	14.4%	
	50歳代	71	20.6%	6	4.5%	
	60歳代	22	6.4%	1	0.8%	
	70歳代	10	2.9%	1	0.8%	
	80歳代	3	0.9%	3	2.3%	
	90歳以上	1	0.3%	－	0.0%	
病型	早期顕症梅毒(Ⅰ期)	196	56.8%	31	23.5%	
	早期顕症梅毒(Ⅱ期)	73	21.2%	55	41.7%	
	晩期顕症梅毒	4	1.2%	2	1.5%	
	先天梅毒	－	0.0%	2	1.5%	
	無症状病原体保有者	72	20.9%	42	31.8%	
推定 感染 経路	性的接触	異性間	257	74.5%	100	75.8%
		同性間	25	7.2%	－	0.0%
		異性・同性間	－	0.0%	－	0.0%
		異性・同性不明	25	7.2%	12	9.1%
	性的接触 以外	母子感染	－	0.0%	2	1.5%
		針などの刺入	－	0.0%	1	0.8%
	不明		38	11.0%	17	12.9%

(届出数-:0)

播種性クリプトコックス症は、男性 5 人、女性 3 人の計 8 人の届出があった。症例の年齢は 70 歳代で 3 人、40 歳代及び 80 歳代で各 2 人、50 歳代で 1 人であった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出のみが 6 人、病理組織学的診断のみが 1 人、分離・同定及び病理組織学的診断が 1 人であった。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が 6 人、不明が 2 人であった。推定感染地域は国内が 7 人、国外が 1 人であった。

破傷風は、3 月に 70 歳代女性 1 人、7 月に 80 歳代男性 1 人の計 2 人の届出があり、前年の 4 人を下回った。いずれも、診断方法は臨床決定であり、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内(県内)であった。ワクチン接種歴は、前者が不明、後者が有りであった。

百日咳は、男性 87 人、女性 87 人の計 174 人の届出があり、前年の 79 人と比較して増加した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、10-14 歳が 45 人、1-4 歳が 26 人、5-9 歳が 24 人の順に多かった。診断方法はイムノクロマト法による病原体抗原の検出が 85 人、単一血清で抗体価の高値が 68 人、核酸増幅法による病原体遺伝子の検出が 27 人、分離・同定による病原体の検出が 1 人、臨床決定が 1 人であった(重複例有り)。ワクチン接種歴は有りが 99 人、無しが 4 人、不明が 71 人であった(表Ⅱ-1-9)。接種歴有り 99 人のうち 87 人が 4 回接種、7 人が 3 回接種、2 人が 2 回接種、3 人が 1 回接種であった。推定感染地域

は国内が 124 人、不明が 50 人であった。

表Ⅱ-1-9 百日咳 年齢階級別届出数とワクチン接種歴（令和 6 年）

年齢階級	症例数	男性	女性	ワクチン接種歴		
				有	無	不明
0歳	8	2	6	4	4	－
1-4歳	26	14	12	25	－	1
5-9歳	24	14	10	21	－	3
10-14歳	45	30	15	34	－	11
15-19歳	16	14	2	10	－	6
20-29歳	13	2	11	1	－	12
30-39歳	18	1	17	－	－	18
40-49歳	12	6	6	4	－	8
50-59歳	5	1	4	－	－	5
60-69歳	4	2	2	－	－	4
70-79歳	1	1	－	－	－	1
80歳以上	2	－	2	－	－	2
合計	174	87	87	99	4	71
割合	100.0%	50.0%	50.0%	56.9%	2.3%	40.8%

(-:0)

風しんは、3 月に男性 20 歳代 1 人の届出があり、前年の 1 人と同値であった。病型は検査診断例で、診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、1 回であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内(県内)であった。

令和 4 年以降届出がなかった麻しんは、男性 5 人、女性 3 人の計 8 人の届出があった。年齢階級は、15-19 歳が 4 人、30 歳代が 2 人、20 歳代及び 40 歳代が各 1 人であった。病型はすべて麻しん(検査診断例)で、診断方法は、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 5 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 2 人、血清 IgM 抗体の検出のみが 1 人であった。ワクチン接種歴は 1 回が 1 人、無しが 4 人、不明が 3 人であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染が 2 人、不明が 6 人であり、推定感染地域はすべて国内(県内 2 人)であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、6 月に女性 80 歳代 1 人の届出があり、前年の 1 人と同値であった。喀痰から *Acinetobacter baumannii* が分離され、特定薬剤への耐性が確認された。推定感染地域は国内であり、90 日以内の海外渡航歴は無かった。

(オ) 獣医師が届出を行う感染症

令和 6 年には、獣医師が届出を行うエボラ出血熱（サル）、重症急性呼吸器症候群（イタチアナグマ、タヌキ、ハクビシン）、ペスト（プレーリードッグ）、マールブルグ病（サル）、細菌性赤痢（サル）、ウエストナイル熱（鳥類）、エキノコックス症（イヌ）、結核（サル）、鳥インフルエンザ（H5N1 又は H7N9）（鳥類）及び中東呼吸器症候群（ヒトコブラクダ）の届出はなかった。

イ 定点把握対象疾患

定点把握による感染症発生動向調査は、指定届出機関（定点医療機関）からの患者情報を収集解析し、情報還元を行っている。内科、小児科、眼科及び基幹定点週報分は、月曜日から日曜日までを 1 週間の単位として、性感染症及び基幹定点月報分は月単位で集計した。

なお、令和 6 年の延べ報告定点数は、週単位報告のインフルエンザ／COVID-19 定点が 13,447 機関、小児科定点が 8,439 機関、眼科定点が 2,163 機関、基幹定点が 624 機関、月単位報告の性感染症定点が 696 機関、基幹定点が 144 機関であった。各定点区分別報告数と定点当たり報告数を表Ⅱ-1-10 から表Ⅱ-1-14、性感染症の性年齢階級別報告数を表Ⅱ-1-15 に示す。

(ア) 週単位報告の感染症（インフルエンザ／COVID-19 定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点報告）

インフルエンザの 2023-2024 年シーズンは、例年と比較しても早い時期から報告数の増加が観察され、令和 5 年 9 月中旬には定点当たり報告数 10.00 を、令和 5 年 10 月下旬には定点当たり報告数 30.00 を超えた。その後、令和 6 年 3 月下旬に至るまでの間、報告数が多い状況が続いた。2024-2025 年シーズンは、令和 6 年 11 月中旬から報告数が増加し始め、令和 6 年第 50 週（12/9-15）には定点当たり報告数 10.00 を、翌週には 30.00 を超え、年末にかけて急激な増加が観察された。

新型コロナウイルス感染症は、令和 5 年第 19 週（5/8-14）の報告開始以降、全数報告期に引き続き定期的な流行が観察されている。令和 6 年は、1 月下旬と 7 月下旬に流行のピークが確認された。

R S ウイルス感染症は、過去と比較しても早い時期にあたる 3 月中旬から報告数の増加が見られ、4 月下旬にピークが観察された。流行のピークは、前年と比較して早い時期に観察されたものの、定点当たり報告患者総数は前年を下回った。咽頭結膜熱は、前年の 11 月下旬をピークとする大規模な流行が令和 6 年に入っても続いており、3 月まで報告数が多い状況が続いた。その後、5 月から 7 月にかけて小規模な夏季流行が観察されたが、前年に観察されたような大規模な流行は令和 6 年では確認されず、定点当たり報告患者総数は前年と比較して大きく減少した。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前年の 10 月中旬以降、高い水準のまま令和 6 年に入った。定点当たり報告数は増減を繰り返しつつ、

7月上旬にかけて多い状況が続いた。感染性胃腸炎は、夏季流行は確認されず、令和6年の冬季流行は11月下旬から確認されたものの、令和2年を除いた過去5年と比較して小さな流行となった。水痘は、令和2年4月以降、4年ぶりに定点当たり報告数の最大値が0.50を上回った。定点当たり報告患者総数は前年と比較して大きく増加した。手足口病は、過去に観察された流行と異なり、7月と10月に2度の流行のピークが観察され、二峰性の大きな流行となった。伝染性紅斑は、平成30年-令和元年と続いた流行が令和2年に終息し、その後流行は見られていなかったが、4年ぶりに流行が観察された。定点当たり報告数の最大値である3.77は、平成11年の感染症法以降、最大の値となった。突発性発しんは、例年と同様の動向が観察されたが、過去5年と比較すると、年間を通してやや低い水準で推移した。ヘルパンギーナは6月から増加し、流行のピークが7月に観察された。その後、減少に転じたものの報告数は下がりきらず、10月にかけて報告が続いた。流行性耳下腺炎は、年間を通して際立った報告数の増加は観察されず、平成30年以降非流行期が続いている。

急性出血性結膜炎は、年間を通して断続的に報告され、5月と12月に報告数の増加が見られた。流行性角結膜炎は、3月下旬以降増加し、5月から8月にかけてやや多い状況が続いた。また、12月以降、再度増加に転じ、やや多い状況にあった。

細菌性髄膜炎の定点当たり報告患者総数は0.58であった。過去10年における定点当たり報告患者総数は0.64~1.40の範囲にあり、最小値である0.64を下回った。報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の定点当たり報告患者総数は3.00であり、前年(3.48)と同水準であった。過去10年の定点当たり報告患者総数2.00~5.70の範囲にあり、報告は例年同様に断続的であった。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告患者総数は78.42であり、前年(1.70)と比較して著しく増加した。過去10年における定点当たり報告患者総数は0.73~47.30の範囲にあり、最大値である47.30を大幅に上回った。第44週(10/28-11/3)に観察された定点当たり報告数5.33は、平成11年の感染症法施行以降、最大の値となった。クラミジア肺炎は、2人の報告があり、定点当たり報告患者総数は0.17であった。令和2年から令和5年にかけて患者報告がなかったため、5年ぶりの報告となった。感染性胃腸炎(ロタウイルス)の定点当たり報告数は0.42であった。令和2年以降、流行は観察されず、過去4年間の定点当たり報告患者総数は0.09~0.54の範囲にある。インフルエンザ(入院患者)の定点当たり報告患者総数は41.00であった。過去10年の定点当たり報告患者総数0.09~52.64の範囲内にあったが、最大値の52.64に次いで大きな値であった。流行は内科・小児科定点報告のインフルエンザと同様の期間に観察された。新型コロナウイルス感染症(入院)は、令和5年の第39週から報告が開始されている。令和6年の定点当たり総報告数は、220.83であった。年齢階級では70歳以上の報告が全体の74%を占めている。

(イ) 月単位報告の感染症（基幹定点、性感染症定点）

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は 20.75 であり、前年(16.28)を上回った。全国(32.80)と比較すると少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 17 年から平成 23 年にかけて 10.00 を超えていたが、その後は 0.70～6.30 の範囲で推移している。令和 6 年の定点当たり報告患者総数は 3.42 で、全国(1.91)より多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症は、年間を通して 1 例のみの報告となった。定点当たり報告患者総数は平成 19 年までは 1.00 以上であったが、平成 20 年から令和 5 年においては 1.00 未満で推移している。令和 6 年の定点当たり報告患者総数は 0.08 で、全国(0.15)と比較しても少なかった。

性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 30.00 を上回っていたが、平成 20 年から令和 5 年においては 24.12～28.72 と、30.00 未満で推移している。令和 6 年の定点当たり報告患者総数は 25.29 で、全国(30.38)より少なかった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は 7.66 であり、前年(9.14)と比較して減少し、全国(10.20)と比較しても少なかった。過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 7.47～9.14 の範囲にある。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は 3.55 であり、前年(4.79)と比較して減少し、全国(6.51)と比較しても少なかった。過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 3.84～6.04 の範囲にあり、最小値の 3.84 を下回った。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は 5.02 であり、平成 11 年の感染症法施行以降、最小であった。全国(8.96)と比較しても少なかった。過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 5.83～11.23 の範囲にある。

ウ 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

令和 6 年の埼玉県における「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の届出はなかった。

表Ⅱ-1-10 定点把握対象疾患（インフルエンザ／COVID-19・小児科・眼科）

週単位報告患者数の推移（令和6年）

週	月／日 （週開始日）	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	01/01	3,551	1,661	2	350	366	526	29	5	1	21	2	7	－	25
2	01/08	4,145	2,416	7	242	491	1,181	41	12	3	28	4	7	1	26
3	01/15	5,874	3,756	8	186	849	1,655	43	15	4	43	2	10	－	26
4	01/22	6,336	4,990	13	189	940	1,692	25	13	5	34	1	12	1	19
5	01/29	6,357	4,773	13	167	877	1,473	36	16	3	29	3	8	1	13
6	02/05	7,732	3,855	22	146	850	1,221	23	14	1	30	2	6	1	13
7	02/12	7,541	2,789	26	121	679	1,181	24	6	3	23	－	6	2	16
8	02/19	6,331	2,169	46	106	701	1,040	41	13	1	30	1	10	1	11
9	02/26	4,598	1,789	50	94	691	1,005	35	22	4	37	4	3	－	16
10	03/04	5,150	1,755	40	72	771	955	40	5	1	29	1	4	1	14
11	03/11	5,796	1,642	74	98	830	932	37	13	2	42	－	6	2	9
12	03/18	4,569	1,528	104	78	684	693	40	8	7	28	2	9	3	16
13	03/25	3,686	1,312	204	57	642	761	39	9	8	38	1	6	3	23
14	04/01	1,608	1,082	219	65	497	651	44	8	5	44	5	12	2	29
15	04/08	753	942	295	59	561	707	36	13	7	29	4	6	－	12
16	04/15	446	946	326	81	760	719	49	17	8	50	9	13	－	26
17	04/22	206	799	352	84	847	781	47	24	5	70	3	17	2	32
18	04/29	83	552	225	65	550	463	23	38	11	34	2	10	1	21
19	05/06	60	741	197	85	658	710	86	53	4	42	2	16	5	37
20	05/13	77	913	216	115	906	851	35	85	18	45	19	20	5	45
21	05/20	52	996	217	157	878	871	40	178	14	60	34	23	15	39
22	05/27	45	1,128	197	135	843	863	47	241	20	71	50	22	8	44
23	06/03	32	1,284	163	146	800	907	66	393	12	66	84	17	9	37
24	06/10	38	1,333	139	149	796	916	62	702	17	47	148	23	4	47
25	06/17	31	1,488	123	161	699	840	59	1,148	20	64	232	21	7	46
26	06/24	28	1,771	115	126	664	837	68	2,027	11	70	425	20	5	48
27	07/01	43	2,237	101	122	663	777	76	3,046	16	61	706	11	2	64
28	07/08	29	2,610	111	126	579	766	57	3,565	29	46	693	15	6	45
29	07/15	55	3,279	119	97	483	648	38	3,004	27	42	568	6	－	39
30	07/22	65	3,292	89	92	385	593	46	2,310	33	44	482	9	3	24
31	07/29	59	2,923	94	85	386	618	27	1,505	36	50	314	8	2	37
32	08/05	45	2,376	92	97	380	522	32	924	30	42	208	10	4	35
33	08/12	48	1,574	36	68	178	199	17	500	11	27	86	7	－	31
34	08/19	57	2,158	30	48	279	492	20	581	40	56	116	14	2	51
35	08/26	149	1,935	48	53	367	474	23	924	45	53	108	8	3	33
36	09/02	161	2,053	53	55	346	606	12	1,257	48	57	137	19	2	45
37	09/09	143	1,809	64	51	364	607	22	1,521	78	56	125	13	1	34
38	09/16	142	1,442	44	63	357	511	29	1,427	63	55	106	8	2	24
39	09/23	104	1,258	43	54	343	439	18	1,703	77	43	83	15	－	29
40	09/30	126	1,096	44	37	347	461	27	1,794	123	49	85	12	－	21
41	10/07	189	813	43	37	358	463	28	2,672	103	34	106	7	1	16
42	10/14	116	598	43	40	334	421	42	2,608	136	36	77	8	－	15
43	10/21	145	513	40	46	356	471	36	2,103	140	47	71	4	1	15
44	10/28	174	482	41	44	328	529	26	1,918	177	45	58	8	2	17
45	11/04	248	404	24	44	311	424	44	1,312	183	38	31	7	1	25
46	11/11	560	552	26	67	424	453	35	949	313	45	18	6	2	25
47	11/18	595	495	41	68	379	513	37	779	302	39	20	5	6	15
48	11/25	1,434	653	39	81	465	674	78	660	569	46	19	5	6	17
49	12/02	2,543	900	54	111	491	794	64	440	554	38	12	9	7	36
50	12/09	5,119	1,078	62	93	501	883	76	286	618	36	3	10	14	41
51	12/16	13,326	1,717	67	96	444	972	71	183	608	30	2	10	12	37
52	12/23	19,981	2,183	74	85	403	873	58	93	449	32	－	8	16	37
令和6年 計		120,781	88,840	4,915	5,194	29,081	39,614	2,154	43,142	5,003	2,251	5,274	556	174	1,498
令和5年 計		135,836	78,948	5,647	10,996	18,829	50,385	1,244	6,377	117	2,278	10,368	529	81	1,016
令和6年/令和5年比		0.9	*	0.9	0.5	1.5	0.8	1.7	6.8	42.8	1.0	0.5	1.1	2.1	1.5

*新型コロナウイルス感染症は、令和5年第19週分（令和5年5月8日～14日）から報告が始まったため、令和6年/令和5年比は算出していません。

（－0）

表Ⅱ-1-11 定点把握対象疾患（インフルエンザ／COVID-19・小児科・眼科）
週単位定点当たり報告数の推移（令和6年）

週	月／日 倉開始日～	インフル エンザ	感新 染型 コ ロ ナ ウ イ ル ス	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎
1	01/01	13.93	6.51	0.01	2.20	2.30	3.31	0.18	0.03	0.01	0.13	0.01	0.04	-	0.61
2	01/08	15.88	9.26	0.04	1.48	2.99	7.20	0.25	0.07	0.02	0.17	0.02	0.04	0.02	0.63
3	01/15	22.51	14.39	0.05	1.13	5.18	10.09	0.26	0.09	0.02	0.26	0.01	0.06	-	0.63
4	01/22	24.28	19.12	0.08	1.15	5.73	10.32	0.15	0.08	0.03	0.21	0.01	0.07	0.02	0.46
5	01/29	24.36	18.29	0.08	1.02	5.35	8.98	0.22	0.10	0.02	0.18	0.02	0.05	0.02	0.31
6	02/05	29.74	14.83	0.13	0.90	5.21	7.49	0.14	0.09	0.01	0.18	0.01	0.04	0.02	0.31
7	02/12	29.00	10.73	0.16	0.74	4.17	7.25	0.15	0.04	0.02	0.14	-	0.04	0.05	0.38
8	02/19	24.35	8.34	0.28	0.65	4.30	6.38	0.25	0.08	0.01	0.18	0.01	0.06	0.02	0.26
9	02/26	17.62	6.85	0.30	0.57	4.21	6.13	0.21	0.13	0.02	0.23	0.02	0.02	-	0.39
10	03/04	19.73	6.72	0.24	0.44	4.70	5.82	0.24	0.03	0.01	0.18	0.01	0.02	0.02	0.33
11	03/11	22.21	6.29	0.45	0.60	5.06	5.68	0.23	0.08	0.01	0.26	-	0.04	0.05	0.21
12	03/18	17.51	5.85	0.63	0.48	4.17	4.23	0.24	0.05	0.04	0.17	0.01	0.05	0.07	0.38
13	03/25	14.18	5.05	1.25	0.35	3.94	4.67	0.24	0.06	0.05	0.23	0.01	0.04	0.07	0.55
14	04/01	6.21	4.18	1.35	0.40	3.07	4.02	0.27	0.05	0.03	0.27	0.03	0.07	0.05	0.69
15	04/08	2.91	3.64	1.82	0.36	3.46	4.36	0.22	0.08	0.04	0.18	0.02	0.04	-	0.29
16	04/15	1.72	3.65	2.01	0.50	4.69	4.44	0.30	0.10	0.05	0.31	0.06	0.08	-	0.62
17	04/22	0.80	3.12	2.17	0.52	5.23	4.82	0.29	0.15	0.03	0.43	0.02	0.10	0.05	0.80
18	04/29	0.33	2.18	1.42	0.41	3.46	2.91	0.14	0.24	0.07	0.21	0.01	0.06	0.02	0.50
19	05/06	0.23	2.84	1.20	0.52	4.01	4.33	0.52	0.32	0.02	0.26	0.01	0.10	0.12	0.88
20	05/13	0.30	3.50	1.32	0.70	5.52	5.19	0.21	0.52	0.11	0.27	0.12	0.12	0.12	1.07
21	05/20	0.20	3.82	1.32	0.96	5.35	5.31	0.24	1.09	0.09	0.37	0.21	0.14	0.36	0.93
22	05/27	0.17	4.32	1.20	0.82	5.14	5.26	0.29	1.47	0.12	0.43	0.30	0.13	0.19	1.05
23	06/03	0.12	4.92	0.99	0.89	4.88	5.53	0.40	2.40	0.07	0.40	0.51	0.10	0.21	0.88
24	06/10	0.15	5.11	0.85	0.91	4.85	5.59	0.38	4.28	0.10	0.29	0.90	0.14	0.10	1.12
25	06/17	0.12	5.72	0.75	0.99	4.29	5.15	0.36	7.04	0.12	0.39	1.42	0.13	0.17	1.10
26	06/24	0.11	6.86	0.71	0.78	4.10	5.17	0.42	12.51	0.07	0.43	2.62	0.12	0.12	1.14
27	07/01	0.17	8.67	0.62	0.75	4.09	4.80	0.47	18.80	0.10	0.38	4.36	0.07	0.05	1.52
28	07/08	0.11	10.00	0.68	0.77	3.53	4.67	0.35	21.74	0.18	0.28	4.23	0.09	0.14	1.07
29	07/15	0.21	12.56	0.73	0.59	2.95	3.95	0.23	18.32	0.16	0.26	3.46	0.04	-	0.93
30	07/22	0.25	12.61	0.54	0.56	2.35	3.62	0.28	14.09	0.20	0.27	2.94	0.05	0.07	0.57
31	07/29	0.23	11.20	0.57	0.52	2.35	3.77	0.16	9.18	0.22	0.30	1.91	0.05	0.05	0.88
32	08/05	0.17	9.17	0.56	0.60	2.33	3.20	0.20	5.67	0.18	0.26	1.28	0.06	0.10	0.83
33	08/12	0.25	8.28	0.31	0.58	1.52	1.70	0.15	4.27	0.09	0.23	0.74	0.06	-	1.07
34	08/19	0.22	8.50	0.19	0.30	1.75	3.09	0.13	3.65	0.25	0.35	0.73	0.09	0.05	1.21
35	08/26	0.58	7.47	0.30	0.33	2.27	2.93	0.14	5.70	0.28	0.33	0.67	0.05	0.07	0.80
36	09/02	0.62	7.90	0.33	0.34	2.12	3.72	0.07	7.71	0.29	0.35	0.84	0.12	0.05	1.07
37	09/09	0.55	6.93	0.39	0.31	2.22	3.70	0.13	9.27	0.48	0.34	0.76	0.08	0.02	0.81
38	09/16	0.54	5.52	0.27	0.38	2.18	3.12	0.18	8.70	0.38	0.34	0.65	0.05	0.05	0.57
39	09/23	0.40	4.82	0.26	0.33	2.09	2.68	0.11	10.38	0.47	0.26	0.51	0.09	-	0.69
40	09/30	0.48	4.22	0.27	0.23	2.13	2.83	0.17	11.01	0.75	0.30	0.52	0.07	-	0.50
41	10/07	0.73	3.13	0.26	0.23	2.20	2.84	0.17	16.39	0.63	0.21	0.65	0.04	0.02	0.38
42	10/14	0.44	2.29	0.26	0.24	2.04	2.57	0.26	15.90	0.83	0.22	0.47	0.05	-	0.36
43	10/21	0.56	1.97	0.24	0.28	2.17	2.87	0.22	12.82	0.85	0.29	0.43	0.02	0.02	0.36
44	10/28	0.67	1.85	0.25	0.27	2.00	3.23	0.16	11.70	1.08	0.27	0.35	0.05	0.05	0.40
45	11/04	0.95	1.55	0.15	0.27	1.91	2.60	0.27	8.05	1.12	0.23	0.19	0.04	0.02	0.60
46	11/11	2.15	2.12	0.16	0.41	2.60	2.78	0.21	5.82	1.92	0.28	0.11	0.04	0.05	0.60
47	11/18	2.29	1.90	0.25	0.42	2.33	3.15	0.23	4.78	1.85	0.24	0.12	0.03	0.14	0.36
48	11/25	5.52	2.51	0.24	0.50	2.85	4.13	0.48	4.05	3.49	0.28	0.12	0.03	0.14	0.40
49	12/02	9.74	3.45	0.33	0.68	2.99	4.84	0.39	2.68	3.38	0.23	0.07	0.05	0.17	0.86
50	12/09	19.61	4.13	0.38	0.57	3.05	5.38	0.46	1.74	3.77	0.22	0.02	0.06	0.33	0.98
51	12/16	51.06	6.58	0.41	0.59	2.71	5.93	0.43	1.12	3.71	0.18	0.01	0.06	0.29	0.88
52	12/23	76.56	8.36	0.45	0.52	2.46	5.32	0.35	0.57	2.74	0.20	-	0.05	0.38	0.88
令和5年 計		468.14	344.34	30.34	32.06	179.51	244.53	13.30	266.31	30.88	13.90	32.56	3.43	4.24	36.54
令和4年 計		528.54	306.00	35.07	68.30	116.95	312.95	7.73	39.61	0.73	14.15	64.40	3.29	1.98	24.78
令和5年/令和4年比		0.9	*	0.9	0.5	1.5	0.8	1.7	6.7	42.5	1.0	0.5	1.0	2.1	1.5

*新型コロナウイルス感染症は、令和5年第19週分（令和5年5月8日～14日）から報告が始まったため、令和6年/令和5年比は算出していません。

(-0)

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表Ⅱ-1-12 定点把握対象疾患（基幹）
週単位報告数・定点当たり報告数の推移（令和6年）

週	月／日 （週開始日）	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	（ロタウイルス） 感染性胃腸炎	インフルエンザ （入院患者）	新型コロナウイルス感染症 （入院患者）
1	01/01	-	-	2	-	-	22	42
2	01/08	-	-	-	-	-	19	75
3	01/15	-	-	-	-	-	20	76
4	01/22	-	-	-	-	-	14	81
5	01/29	-	-	1	-	-	16	60
6	02/05	1	1	-	-	-	11	79
7	02/12	-	-	1	-	-	11	74
8	02/19	-	1	1	-	-	6	51
9	02/26	-	2	2	-	-	9	59
10	03/04	-	-	2	-	1	8	47
11	03/11	-	2	-	-	-	9	41
12	03/18	-	-	-	-	1	7	60
13	03/25	-	-	-	-	-	7	41
14	04/01	-	-	1	-	-	1	40
15	04/08	-	1	-	-	-	1	45
16	04/15	-	-	1	-	-	2	34
17	04/22	-	1	-	-	-	-	25
18	04/29	-	1	-	-	1	2	19
19	05/06	-	-	3	-	-	-	22
20	05/13	-	-	3	-	-	1	34
21	05/20	-	-	1	-	-	1	35
22	05/27	-	-	1	-	1	2	43
23	06/03	-	-	5	1	-	-	34
24	06/10	-	-	7	-	-	2	28
25	06/17	2	-	5	-	-	-	42
26	06/24	-	1	2	-	-	-	44
27	07/01	-	1	8	-	-	3	70
28	07/08	1	-	14	-	-	-	91
29	07/15	1	-	17	-	-	1	98
30	07/22	-	-	20	-	-	2	78
31	07/29	2	2	32	-	-	1	101
32	08/05	-	-	25	-	-	-	94
33	08/12	-	-	25	-	-	1	86
34	08/19	-	1	22	-	-	-	63
35	08/26	-	-	14	1	-	2	70
36	09/02	-	1	31	-	-	-	71
37	09/09	-	1	46	-	-	-	46
38	09/16	-	1	30	-	-	-	31
39	09/23	-	2	51	-	-	-	35
40	09/30	-	3	39	-	-	-	32
41	10/07	-	2	36	-	-	1	38
42	10/14	-	4	37	-	-	1	29
43	10/21	-	1	56	-	-	1	16
44	10/28	-	1	64	-	-	1	24
45	11/04	-	1	53	-	-	2	16
46	11/11	-	2	52	-	1	4	37
47	11/18	-	1	56	-	-	4	22
48	11/25	-	-	49	-	-	12	25
49	12/02	-	1	41	-	-	25	36
50	12/09	-	-	35	-	-	44	51
51	12/16	-	-	21	-	-	89	69
52	12/23	-	1	29	-	-	127	90
令和6年	計	7	36	941	2	5	492	2,650
令和5年	計	11	39	19	-	6	382	382
令和6年/令和5年比		0.6	0.9	49.5		0.8	1.3	*

週	月／日 （週開始日）	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	（ロタウイルス） 感染性胃腸炎	インフルエンザ （入院患者）	新型コロナウイルス感染症 （入院患者）
1	01/01	-	-	0.17	-	-	1.83	4
2	01/08	-	-	-	-	-	1.58	6
3	01/15	-	-	-	-	-	1.67	6
4	01/22	-	-	-	-	-	1.17	7
5	01/29	-	-	0.08	-	-	1.33	5
6	02/05	0.08	0.08	-	-	-	0.92	7
7	02/12	-	-	0.08	-	-	0.92	6
8	02/19	-	0.08	0.08	-	-	0.50	4
9	02/26	-	0.17	0.17	-	-	0.75	5
10	03/04	-	-	0.17	-	0.08	0.67	4
11	03/11	-	0.17	-	-	-	0.75	3
12	03/18	-	-	-	-	0.08	0.58	5
13	03/25	-	-	-	-	-	0.58	3
14	04/01	-	-	0.08	-	-	0.08	3
15	04/08	-	0.08	-	-	-	0.08	4
16	04/15	-	-	0.08	-	-	0.17	3
17	04/22	-	0.08	-	-	-	-	2
18	04/29	-	0.08	-	-	0.08	0.17	2
19	05/06	-	-	0.25	-	-	-	2
20	05/13	-	-	0.25	-	-	0.08	3
21	05/20	-	-	0.08	-	-	0.08	3
22	05/27	-	-	0.08	-	0.08	0.17	4
23	06/03	-	-	0.42	0.08	-	-	3
24	06/10	-	-	0.58	-	-	0.17	2
25	06/17	0.17	-	0.42	-	-	-	4
26	06/24	-	0.08	0.17	-	-	-	4
27	07/01	-	0.08	0.67	-	-	0.25	6
28	07/08	0.08	-	1.17	-	-	-	8
29	07/15	0.08	-	1.42	-	-	0.08	8
30	07/22	-	-	1.67	-	-	0.17	7
31	07/29	0.17	0.17	2.67	-	-	0.08	8
32	08/05	-	-	2.08	-	-	-	8
33	08/12	-	-	2.08	-	-	0.08	7
34	08/19	-	0.08	1.83	-	-	-	5
35	08/26	-	-	1.17	0.08	-	0.17	6
36	09/02	-	0.08	2.58	-	-	-	6
37	09/09	-	0.08	3.83	-	-	-	4
38	09/16	-	0.08	2.50	-	-	-	3
39	09/23	-	0.17	4.25	-	-	-	2.92
40	09/30	-	0.25	3.25	-	-	-	2.67
41	10/07	-	0.17	3.00	-	-	0.08	3.17
42	10/14	-	0.33	3.08	-	-	0.08	2.42
43	10/21	-	0.08	4.67	-	-	0.08	1.33
44	10/28	-	0.08	5.33	-	-	0.08	2.00
45	11/04	-	0.08	4.42	-	-	0.17	1.33
46	11/11	-	0.17	4.33	-	0.08	0.33	3.08
47	11/18	-	0.08	4.67	-	-	0.33	1.83
48	11/25	-	-	4.08	-	-	1.00	2.08
49	12/02	-	0.08	3.42	-	-	2.08	3.00
50	12/09	-	-	2.92	-	-	3.67	4.25
51	12/16	-	-	1.75	-	-	7.42	5.75
52	12/23	-	0.08	2.42	-	-	10.58	7.50
令和6年	計	0.58	3.00	78.42	0.17	0.42	41.00	220.83
令和5年	計	0.98	3.48	1.70	-	0.54	34.11	32
令和5年/令和4年比		0.6	0.9	46.2		0.8	1.2	*

(--0)

(--0)

*新型コロナウイルス感染症（入院患者）は令和5年第39週分（令和5年9月25日～10月1日）から報告が始まったため、令和6年/令和5年比は算出していません。

定点当たり報告数は、小数点以下第3位を四捨五入

表Ⅱ-1-13 定点把握対象疾患(基幹)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和6年)

月	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	23	1.92	4	0.33	－	－
2月	16	1.33	4	0.33	－	－
3月	17	1.42	3	0.25	－	－
4月	20	1.67	3	0.25	－	－
5月	17	1.42	4	0.33	－	－
6月	22	1.83	4	0.33	－	－
7月	28	2.33	3	0.25	－	－
8月	17	1.42	1	0.08	1	0.08
9月	24	2.00	3	0.25	－	－
10月	19	1.58	3	0.25	－	－
11月	24	2.00	4	0.33	－	－
12月	22	1.83	5	0.42	－	－
令和6年 計	249	20.75	41	3.42	1	0.08
令和5年 計	184	16.28	35	3.10	2	0.18
令和6年/令和5年比	1.4	1.3	1.2	1.1	0.5	0.5

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

(－:0)

表Ⅱ-1-14 定点把握対象疾患(性感染症)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和6年)

月	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	132	2.28	47	0.81	20	0.34	21	0.36
2月	121	2.09	33	0.57	15	0.26	21	0.36
3月	131	2.26	36	0.62	19	0.33	28	0.48
4月	122	2.10	38	0.66	29	0.50	22	0.38
5月	116	2.00	49	0.84	14	0.24	24	0.41
6月	117	2.02	35	0.60	23	0.40	21	0.36
7月	135	2.33	37	0.64	11	0.19	20	0.34
8月	130	2.24	27	0.47	15	0.26	27	0.47
9月	110	1.90	37	0.64	13	0.22	25	0.43
10月	132	2.28	39	0.67	14	0.24	28	0.48
11月	119	2.05	28	0.48	17	0.29	27	0.47
12月	102	1.76	38	0.66	16	0.28	27	0.47
令和6年 計	1,467	25.29	444	7.66	206	3.55	291	5.02
令和5年 計	1,595	27.50	530	9.14	278	4.79	338	5.83
令和6年/令和5年比	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.9	0.9

定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表Ⅱ-1-15 定点把握対象疾患（性感染症）
性年齢階級別報告患者数の推移（令和6年）

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	1	-	-	-	-	-
10-14歳	-	4	1	5	-	-	-	-
15-19歳	23	99	3	17	2	8	13	20
20-24歳	113	336	10	57	10	35	38	41
25-29歳	115	253	11	56	16	25	25	12
30-34歳	64	116	13	48	5	18	26	8
35-39歳	48	53	22	31	14	5	22	2
40-44歳	52	63	10	34	12	5	28	4
45-49歳	19	29	12	22	10	7	16	3
50-54歳	21	10	12	29	7	3	12	1
55-59歳	21	6	9	16	10	3	9	2
60-64歳	8	3	2	8	6	-	2	1
65-69歳	5	2	1	4	1	-	3	-
70歳～	2	2	2	8	4	0	2	1
合計	491	976	109	335	97	109	196	95
男女比	0.50	1.00	0.33	1.00	0.89	1.00	2.06	1.00

(-:0)

(2) 病原体情報

ア 全数把握対象疾患の病原体検出状況

(ア) 一類・二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法 (VNTR 法) 等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。令和6年に採取された患者検体からの分離菌株 125 株について遺伝子解析を行った。これらの解析結果では、北京型は 85 株 (68.0%)、非北京型は 40 株 (32.0%) であった。さらに、北京型の系統推定では 55 株 (64.7%) が祖先型、27 株 (31.8%) が新興型であった。過去5年間と比較して、北京型の割合は同水準であった。また、北京型における新興型の割合は、令和2年から令和5年にかけて増加傾向にあったものの、令和6年は令和5年と同水準であった。

(イ) 三類感染症の病原体検出状況

三類感染症の細菌は、赤痢菌 2 株、腸管出血性大腸菌 175 株、チフス菌 1 株の計 178 株で、コレラ菌及びパラチフス菌は分離されなかった。

赤痢菌 2 株の菌種は、*S. flexneri* が 1 株、*S. sonnei* が 1 株であった。このうち *S. flexneri* は海外渡航歴のある患者から分離された。渡航先はバングラデシュであった。国内感染が疑われる株は *S. sonnei* が 1 株であった(表Ⅱ-1-16)。

表Ⅱ-1-16 県内で分離された赤痢菌 (令和 6 年)

分離月	菌種	性別	年齢	推定感染地域
9月	<i>S. flexneri</i> 3a	男	20歳代	バングラデシュ
9月	<i>S. sonnei</i>	女	60歳代	国内

腸管出血性大腸菌は、175 株が県内で分離された。血清型は、27 の血清型に型別された。最も多く検出された血清型は O157:H7 で 65 株(37.1%)であった。次いで O157:H- で 26 株(14.9%)、O26:H11 で 11 株(6.3%)であった。毒素型では、VT1&2 が 80 株(45.7%)、VT2 が 51 株(29.1%)、VT1 が 44 株(25.1%)であった。なお、O157:H7 (VT2) と O157:HUT (VT2) が同時検出された症例が 1 件あった(表Ⅱ-1-17)。

腸チフスの原因菌であるチフス菌は 1 株分離された。ファージ型は DVS であった。患者はインドネシアへの海外渡航歴があり、発症状況から国外での感染が疑われた。

表Ⅱ-1-17 県内で分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型（令和6年）

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	－	28*	37	65
O157:H－	－	5	21	26
O157:HUT	－	1	2	3
O26:H11	10	－	1	11
O26:H－	2	－	－	2
O111:H－	4	－	2	6
O103:H2	7	－	－	7
O103:H－	－	1	－	1
O8:H28	－	1	－	1
O115:H10	5	－	－	5
O115:HUT	1	－	－	1
O121:H19	－	1	－	1
O128:H2	－	－	4	4
O145:H－	－	1	－	1
O55:HUT	3	－	－	3
O76:H19	1	－	－	1
O91:H－	－	－	1	1
O91:HUT	－	－	3	3
O168:HUT	－	1	－	1
O178:H19	－	1	－	1
O181:H49	－	1	－	1
OUT:H11	1	1	－	2
OUT:H18	1	－	2	3
OUT:H19	3	－	－	3
OUT:H2	－	1	3	4
OUT:HUT	1	8*	2	11
OUT:H－	5	－	2	7
合計	44	51	80	175

*:1つの症例で2つのO血清型(O157 1件、OUT 1件)が検出された例を含む

(ウ) 四類感染症の病原体検出状況

四類感染症のウイルスの月別検出状況を表Ⅱ-1-18 に示す。

E型肝炎は23例25検体が採取され、17例18検体からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、G3が12例、型別未確定が5例であった。ウイルスが検出された全症例に海外渡航歴は確認されなかった。

A型肝炎は1例3検体が採取されたが、A型肝炎ウイルスは検出されなかつ

た。

エムポックスは1例1検体が採取されたが、エムポックスウイルスは検出されなかった。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は1例1検体が採取されたが、SFTS ウイルスは検出されなかった。

デング熱は14例17検体が採取され、デングウイルスが検出されたのは6例7検体で、その他の2例2検体から非構造蛋白抗原(NS1)が検出された。デングウイルスの遺伝子型は3型が3例、2型が2例、1型が1例であった。全症例で東南アジア方面への渡航歴があった。

表Ⅱ-1-18 月別四類ウイルス検出状況（全数把握対象）（令和6年）

臨床診断名	検出月 検体合計数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
E型肝炎	検体数	5	4		3	3	2	2	2	1		2	1	25
	E型肝炎	3	3		3	2	2	2	1	1		1		18
A型肝炎	検体数		3											3
	A型肝炎													
エムポックス	検体数	1												1
	エムポックス													
重症熱性血小板減少症候群	検体数										1			1
	SFTS													
デング熱	検体数	2		2	3		2		2	5		1		17
	デング	1		1			2			5				9

つつが虫病は、11月及び12月に採取された2例2検体からつつが虫病リケッチア（*Orientia tsutsugamushi*）遺伝子が検出された。

ブルセラ症は、6月に採取された1検体から *Brucella melitensis* が検出された。患者は中華人民共和国への渡航歴があった。

ライム病は、5月に採取された1検体からボレリア (*Borrelia afzelii*) 遺伝子が検出された。患者はルーマニアへの渡航歴があった。

類鼻疽は、6月に採取された1検体から *Burkholderia pseudomallei* が検出された。患者はベトナムへの渡航歴があった。

レプトスピラ症は9月に採取された1検体から *Leptospira interrogans* が検出された。血清群は Autumnalis であった。

レジオネラ症は19症例20株が県内で分離された。血清群(SG)の内訳は、SG1が17株で最も多く、SG3が2株、SG2が1株であった。1症例は *Legionella pneumophila* SG2 及び SG3 が同時に検出された。また、菌は分離できなかったが LAMP 法で陽性を示したものが11件、PCR 法で *Legionella pneumophila* を示したものが1件あった（表Ⅱ-1-19）。

表Ⅱ-1-19 レジオネラ症 病原体分離状況（令和6年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
<i>Legionella pneumophila</i> SG1	-	-	3	-	3	-	1	2	2	2	2	2	17
<i>Legionella pneumophila</i> SG2	-	-	-	-	-	-	-	-	1*	-	-	-	1
<i>Legionella pneumophila</i> SG3	-	-	-	-	-	-	-	-	2*	-	-	-	2
<i>Legionella</i> spp.(LAMP陽性)	1	-	-	-	-	-	6	1	2	1	-	-	11
<i>Legionella pneumophila</i> (PCR陽性)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
計	1	-	3	-	3	-	8	3	7	3	2	2	32

*:1症例から2つの血清群が検出された例を含む (-:0)

(エ) 五類感染症全数把握対象疾患の病原体検出状況

五類感染症の全数把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表Ⅱ-1-20 に示す。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）は、1例5検体が搬入され、3検体からエコーウイルス11型が検出された。海外への渡航歴はなかった。

急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）は、1例6検体が採取され、1検体からヒトヘルペスウイルス6及びヒトヘルペスウイルス7が重複して検出された。

急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）は、23例54検体が採取され、10例15検体からウイルスが検出された。同一検体から複数のウイルスが検出された症例や、同一症例の異なる種類の検体から異なるウイルスが検出された症例があった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症では、10菌種、99株のカルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）が分離された。最も多く分離されたのは、*Enterobacter cloacae* complexで35株（35.4%）、次いで*Klebsiella aerogenes*が28株（28.3%）、*Klebsiella pneumoniae*が10株（10.1%）、*Escherichia coli*が8株（8.1%）、*Citrobacter freundii* complexが7株（7.1%）、*Serratia marcescens*が5株（5.1%）、*Klebsiella oxytoca*と*Morganella morganii*が各2株、*Citrobacter koseri*と*Kluyvera intermedia*が各1株の順であった。*Klebsiella*属は、40株（*K. aerogenes* 28株、*K. pneumoniae* 10株、*K. oxytoca* 2株）で全体の40.4%であった。

薬剤耐性遺伝子は、カルバペネマーゼ遺伝子（NDM型、KPC型、IMP型、VIM型、GES型、OXA-48型）6種、基質特異性拡張型βラクタマーゼ（ESBL）遺伝子（TEM型、SHV型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group）5種、AmpC型βラクタマーゼ遺伝子（ACC型、CIT型、DHA型、EBC型、FOX型、MOX型）6種の計17種類について検査を実施した。カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）は、25株（25.3%）であった。菌種は、*K. pneumoniae*、*E. cloacae* complex、*E. coli*、*C. freundii* complexの4菌種であった。このうちIMP型保有株は16株でCPEの64.0%を占めていた。こ

のほか海外型遺伝子であるNDM型が5株、KPC型が2株、OXA-48型が1株、IMI型が1株分離された。海外型遺伝子が検出された患者は海外渡航歴がなく国内感染が疑われた。基質特異性拡張型 β ラクターマーゼ遺伝子保有株は15株(15.2%)、AmpC型 β ラクターマーゼ遺伝子保有株は23株(23.2%)であった。分離されたCREのうちCPEの割合は、令和4年まで減少傾向にあったが、令和5年から増加傾向にある。

水痘(入院例に限る。)では、1例2検体が採取され、水痘帯状疱疹しんウイルスが検出された。

風しんは、10例24検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

麻しんは、92例263検体が採取され、7例17検体から麻しんウイルスが検出された。検出された麻しんウイルスの遺伝子型は7例すべてD8型であった。麻しんウイルス以外に検出されたのは5例16検体からヒトパルボウイルスB19が、1例1検体からヒトヘルペスウイルス6がそれぞれ検出された。また、1例1検体から麻しんウイルス(ワクチン株)が検出された。

表Ⅱ-1-20 月別五類ウイルス検出状況(全数把握対象)(令和6年)

臨床診断名	検出月 検体数合計数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
		7	20	39	33	13	12	20	8	17	115	40	30	354	
ウイルス性肝炎 (E型及びA型を除く)	検体数										5			5	
	エコー 11										3			3	
急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く)	検体数									6				6	ヒトヘルペス 6(1)、ヒトヘルペス 7(1)
	エンテロ D68														
急性脳炎 (四類以外)	検体数	4	7		5	4	2	12	2	3	8		7	54	
	コクサッキー A6							1						1	
	コクサッキー A10							2						2	
	エコー 11										1			1	
	パレコ										1			1	
	ライノ							1						1	
	サイトメガロ					1		3						4	
	ヒトヘルペス 6							1	1					2	
	ムンプス												1	1	
	インフルエンザ AH1pdm09										1			1	
	パラインフルエンザ 3					1								1	
	アデノ 1					2								2	
	アデノ 2							2						2	
	アデノ 3	2												2	
	アデノ nt							1						1	
水痘(入院例)	検体数										2			2	
	水痘帯状疱疹しん											2		2	
風しん	検体数	3		1				5		3	6	6		24	
	風しん														
麻しん	検体数		13	38	28	9	10	3	6	5	94	34	23	263	麻しん(ワクチン株)(1)、ヒトヘルペス 6(1)、ヒトパルボ B19(16)
	麻しん										17			17	

劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来の溶血性レンサ球菌は99株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は64株(64.6%)、*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE)は22株(22.2%)、*Streptococcus agalactiae* は12株(12.1%)、*Streptococcus canis* は1株(1.0%)であった。令和5年以降分離

株数の増加が続いており、特に *S. pyogenes* の分離株数が著しく増加している。*S. pyogenes* の T 型別/M 蛋白遺伝子 (*emm*) 型は、T1/*emm*1.0 が 30 株、T12/*emm*12.0 及び TB3264/*emm*89.0 が各 4 株、T4/*emm*4.0、T9/*emm*9.0、T12/*emm*12.101、T12/*emm*12.135、T12/*emm*12.7 及び T14/29/*emm*49.0 が各 1 株、T 型別不能(TUT)/*emm*49.0 が 15 株、TUT/*emm*81.0 が 3 株、TUT/*emm*1.0 及び TUT/*emm*11.0 が各 1 株分離された。SDSE の *emm* 型は、stG245.0 及び stG6792.3 が各 5 株、stG485.0 が 3 株、stG4222.3 が 2 株、stG6.1、stG652.0、stG652.5、stG840.0、stC1400.0、stG2078.1 及び stG6792.23 が各 1 株であった。

S. agalactiae の血清型は、V 型が 4 株、I b 型及び II 型が各 2 株、I a 型、III 型、IV 型、型別不能が各 1 株であった。

2010 年代に英国で流行した *S. pyogenes* M1_{UK} lineage (M1UK 株) の集積が令和 5 年夏以降に日本国内でも確認されている。M1_{UK} 株とは、*emm*1 型の中で特徴的な遺伝子配列を有する系統であり、M1_{global} 株と比較して病原性及び伝播性が高いとされており、近年その動向が注目されている。埼玉県で分離された *emm*1 型株 31 株の内 28 株が M1_{UK} 株であり、*emm*1 型の主要な分離系統となっていると考えられる。

侵襲性髄膜炎菌感染症由来の髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) は、5 月に 1 株分離された。血清群/シーケンスタイプは、Y 群/ST767 であった。

侵襲性肺炎球菌感染症由来の肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) は、4 月と 5 月にそれぞれ 1 株ずつ、計 2 株分離された。血清群/シーケンスタイプは、それぞれ 22F/ST433、6C/ST2924 であった。

播種性クリプトコックス症由来の *Cryptococcus neoformans* は、2 月、4 月、5 月に各 2 株、6 月に 1 株、計 7 株分離された。

薬剤耐性アシネトバクターは 6 月に 1 株が分離された。分離株は *Acinetobacter baumannii* complex で、耐性遺伝子は OXA-51-like であった。

(オ) 五類感染症定点把握対象疾患の病原体検出状況

インフルエンザでは 477 検体が採取された。検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 亜型が 195 件、AH3 亜型が 74 件、B 型が 184 件であった。B 型についてはすべてビクトリア系統であった(表 II-1-21)。2023-2024 年シーズンは、シーズン開始当初は AH1pdm09 亜型及び AH3 亜型が混在していたが、1 月以降 B 型(ビクトリア系統)の検出数が増加した。2024-2025 年シーズンは、シーズン開始当初の 9 月から 12 月までは AH1pdm09 亜型が検出数の大部分を占めていた。

表Ⅱ-1-21 月別インフルエンザウイルス検出状況（定点把握対象 令和6年）

臨床診断名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
インフルエンザ	検体数	130	75	59	28	9	5	4	5	11	10	43	98	477	新型コロナウイルス(14), RS(1), ヒトメタニューモ(2), パラインフルエンザ 3(1), パラインフルエンザ 4(1), コロナ NL63(1), エンテロ nt(1), ライノ(1)
	インフルエンザ AH1pdm09	20	5	4	5	6	4	1	3	8	7	40	92	195	
	インフルエンザ AH3	50	8	6	2	2		3	1				2	74	
	インフルエンザ B(ビクトリア)	55	59	46	19					2		2	1	184	

RSウイルス感染症では18検体が採取された。検出されたRSウイルスはサブグループAが9件、サブグループBが1件であった（表Ⅱ-1-22）。

咽頭結膜熱は4検体が採取された。検出されたアデノウイルスはアデノウイルス3型及びアデノウイルス（型別不能）がそれぞれ1件であった（表Ⅱ-1-22）。

A群溶血性レンサ球菌感染症では、5月に1検体が採取され、*Streptococcus pyogenes* が分離された。T型別/emm型はT1/emm1.0(M1UK株)であった。

感染性胃腸炎では51検体が採取された。検出された胃腸炎起因ウイルスはノロウイルスが17件、サポウイルスが6件、アストロウイルスが3件、アデノウイルス41型が2件、A群ロタウイルスが1件であり、4検体でノロウイルスとサポウイルスが重複して検出された。ノロウイルスの遺伝子群はすべてG2であった（表Ⅱ-1-22）。

手足口病では72検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルスA群6型が28件、コクサッキーウイルスA群16型が16件、エンテロウイルスA71型が7件、コクサッキーウイルスA群10型が5件であった。令和6年は手足口病の検体が多く搬入され、春から夏にかけてコクサッキーウイルスA群6型が、秋から冬にかけてはコクサッキーウイルスA群16型が多く検出された（表Ⅱ-1-22）。

伝染性紅斑では4検体が採取され、ヒトパルボウイルスB19が2件検出された（表Ⅱ-1-22）。

突発性発しんでは8検体が採取され、ヒトヘルペスウイルス6が4件、ヒトヘルペスウイルス7が2件検出された（表Ⅱ-1-22）。

ヘルパンギーナでは20検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルスA群6型が6件、コクサッキーウイルスA群10型が3件、コクサッキーウイルスA群4型が1件であった。また、コクサッキーウイルスB群5型及びエコーウイルス11型もそれぞれ1件検出された（表Ⅱ-1-22）。

流行性角結膜炎では7検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス37型が3件、アデノウイルス3型及びアデノウイルス56型がそれぞれ1件であった（表Ⅱ-1-22）。

表Ⅱ-1-22 月別五類ウイルス検出状況（定点把握対象 令和6年）

臨床診断名	採取月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
	検体合計数	16	6	19	15	24	35	36	32	64	58	21	14	340	
RSウイルス 感染症	検体数				4	2	4	3				3	2	18	パラインフルエンザ 3(2)、ライノ(5)
	RS(A)				4	1	3	1						9	
	RS(B)												1	1	
咽頭結膜熱	検体数	1					3							4	アデノ nt(1)、コクサッキー A10(1)
	アデノ 3	1												1	
感染性胃腸炎	検体数	8	5	8	1	4	5	8	2	4	1	2	3	51	アデノ 2(2)、アデノ 3(1)、アデノ nt(1)、 コクサッキー A6(2)、エコー 11(1)、パ レコ(4)、ライノ(6)
	ノロ	5	2	6	1	1	1	1						17	
	サポ	2		2		1		1						6	
	アストロ		1			1	1							3	
	ロタ (A)									1				1	
	アデノ 41					1						1		2	
手足口病	検体数	1				13	14	11	8	11	8	2	4	72	ライノ(3)、EB(2)、サイトメガロ(1)
	コクサッキー A6					10	9	8	1					28	
	コクサッキー A10						2	1	2					5	
	コクサッキー A16								1	8	3	2	2	16	
	エンテロ A71					1				1	4		1	7	
伝染性紅斑	検体数							1	2		1			4	
	ヒトパルボ B19							1	1					2	
突発性発しん	検体数							3	2	2		1		8	
	ヒトヘルペス 6							1	2			1		4	
	ヒトヘルペス 7							1		1				2	
ヘルパンギーナ	検体数			1	3		7	6		2			1	20	コクサッキー B5(1)、エコー 11(1)、ラ イノ(2)、アデノ 1(1)
	コクサッキー A4				1									1	
	コクサッキー A6				1		1	4						6	
	コクサッキー A10						3							3	
流行性角結膜炎	検体数	1			2	1	2					1		7	
	アデノ 3	1												1	
	アデノ 37					1	1					1		3	
	アデノ 56				1									1	
無菌性髄膜炎	検体数	5	1	10	5	4		4	18	45	48	12	4	156	
	コクサッキー A6								1					1	
	コクサッキー A16								1		3			4	
	コクサッキー B2								2					2	
	コクサッキー B3									7	3			10	
	コクサッキー B5									3				3	
	エコー 11							5	4	21	3	1		34	
	エコー 18										3	1		4	
	エコー 30												2	2	
	エンテロ A71									5	3	2		10	
	エンテロ nt										2			2	
	パレコ									1				1	
	ライノ								2					2	
	インフルエンザ AH1pdm09												1	1	

nt: not typed

無菌性髄膜炎では 63 例 156 検体が採取され、32 例 74 検体から 76 件のウイルスが検出された。6 月を除き年間を通じて検体搬入があったが、ウイルスが検出されたのは 8 月～12 月に採取された検体であった。検出されたウイルスは、エコーウイルス 11 型が 13 例 34 件と最も多く、以下、エンテロウイルス A71 型が 5 例 10 件、コクサッキーウイルス B 群 3 型が 4 例 10 件、コクサッキーウイルス A 群 16 型が 3 例 4 件、エコーウイルス 18 型が 2 例 4 件、エンテロウイルス (型別不能) が 2 例 2 件、コクサッキーウイルス B 群 5 型が 1 例 3 件、

コクサッキーウイルス B 群 2 型、エコーウイルス 30 型及びライノウイルスがそれぞれ 1 例 2 件、コクサッキーウイルス A 群 6 型、パレコウイルス及びインフルエンザウイルス AH1pdm09 亜型がそれぞれ 1 例 1 件であった。なお、エンテロウイルス A71 型とパレコウイルスが、ライノウイルスとコクサッキーウイルス A 群 6 型がそれぞれ同一検体から重複して検出された。また、エンテロウイルス (型別不能) については同一症例の異なる種類の検体からそれぞれエコーウイルス 11 型、エコーウイルス 18 型が検出された(表Ⅱ-1-22)。

新型コロナウイルス感染症は、次世代シーケンサー(NGS)によるゲノム解析(県内医療機関(急性呼吸器感染症(病原体)サーベイランスの協力医療機関も含む)及び検査会社から提供された検体に基づく)によると、令和 5 年 4 月以降オミクロン株の BA.2 系統が流行の中心となり、令和 6 年も BA.2 系統による流行が継続していた(図Ⅱ-1-2)。令和 6 年に検出された BA.2 系統を詳細に亜型で分類すると、1 月から 4 月にかけては JN.1 系統が主流の亜型であったが、5 月からは KP.3 系統が増加し、10 月下旬にかけて主流の亜型であった。10 月下旬以降は、KP.3.1.1 系統と XEC 系統が検出の大部分を占めるようになった。

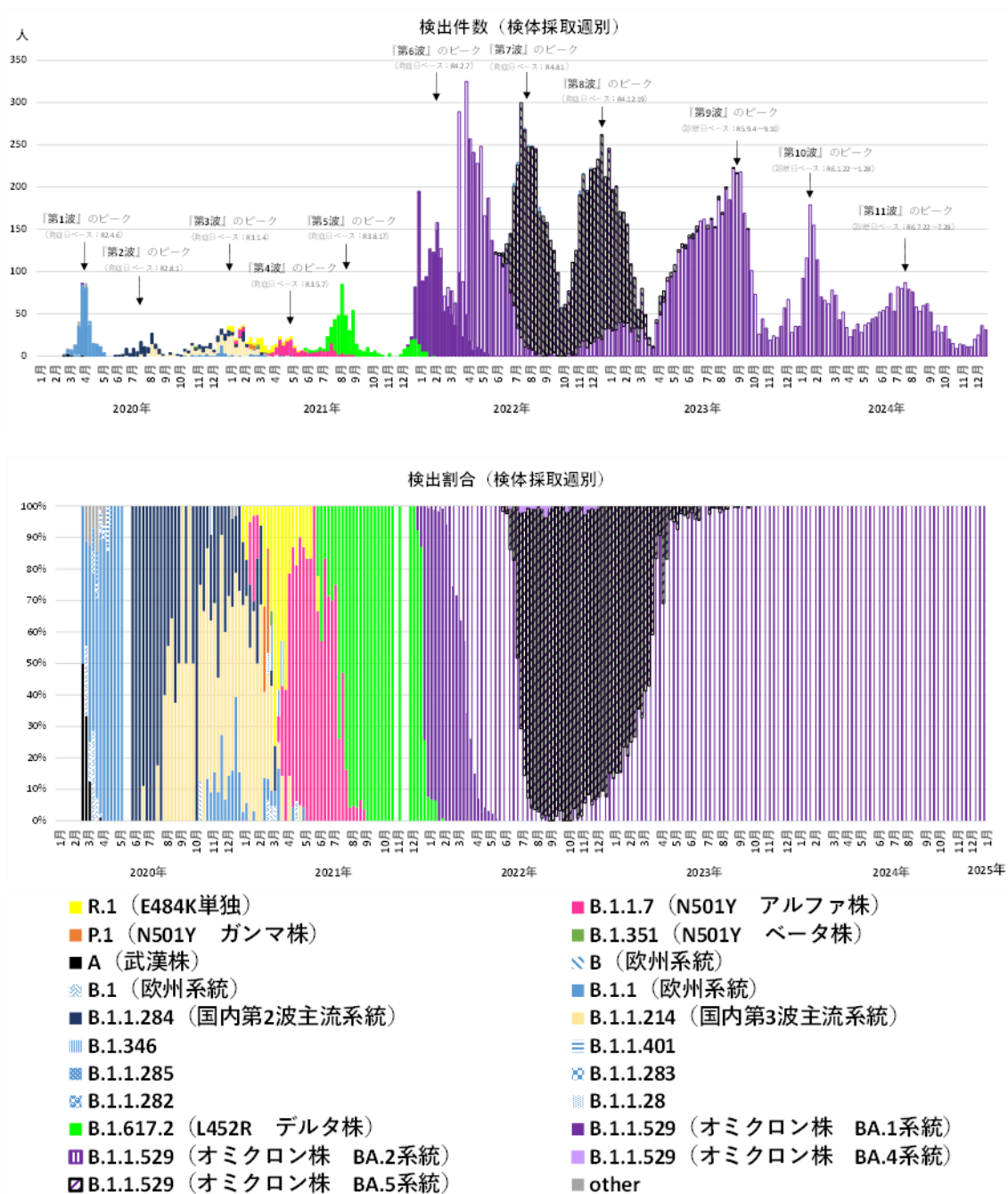


図 II-1-2 新型コロナウイルス ゲノム解析結果

(3) 急性呼吸器感染症（病原体）サーベイランス

令和5年5月8日から継続して「症状などから臨床的に急性呼吸器感染症(COVID-19、インフルエンザ以外を含む)が疑われ、感冒様症状(発熱(37.5℃以上)、咳、鼻閉、鼻汁、咽頭痛など(いずれか1つ以上))もしくは肺炎所見(胸部画像検査上、肺炎(疑い)所見(+))を呈した患者の検体」を積極的に収集し病原体検索を行っている。

急性呼吸器感染症として2206検体が採取され、新型コロナウイルスが779件検出された。インフルエンザウイルスの検出は、AH1pdm09亜型が215件、AH3亜型が75件、A型(亜型不明)が1件、B型(ビクトリア系統)が190件であった。なお、当サーベイランスを対象に採取された検体のうち、インフルエンザが疑われる検体に

については「表Ⅱ-1-21 月別インフルエンザウイルス検出状況（定点把握対象 令和6年）」においても重複して集計している。新型コロナウイルス及びインフルエンザウイルスいずれも不検出だった検体については、その他の病原体遺伝子検索を行い、ライノウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス1～4型等の病原体が検出され、病原体毎に集中的に多く検出される時期が確認された。特に平成11年の感染症法施行以降、最大の流行となったマイコプラズマ肺炎の原因病原体である肺炎マイコプラズマは、流行時期に合わせ7月～11月まで検出が続いた（表Ⅱ-1-23）。

表Ⅱ-1-23 急性呼吸器感染症病原体サーベイランス ウイルス検出状況（令和6年）

臨床診断名	採取月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
急性呼吸器感染症	検体数	330	259	236	133	161	168	175	130	181	110	156	167	2206
	新型コロナ	128	96	99	23	53	78	86	66	86	22	22	20	779
	インフルエンザ AH1pdm09	21	6	7	5	6	4	3	3	9	8	44	99	215
	インフルエンザ AH3	49	8	6	2	2		3	1	1		1	2	75
	インフルエンザ A												1	1
	インフルエンザ B(ビクトリア)	56	60	48	21					2		2	1	190
	ヒトメタニューモ	7	9	10	5	1	1	4	1	2	3	2	2	47
	RS	4	9	7	14	5	10	7	4	3	4	1	3	71
	コロナ HKU1			1	1								1	3
	コロナ NL63	3	10	6	1	1	1							22
	コロナ OC43	2	1			1	1					2	2	9
	コロナ 229E	2		3	1									6
	パレコ						1	1	1	1		2	1	7
	ライノ	10	14	11	18	26	17	16	5	8	9	10	3	147
	ボカ	1		1	1	10	8	6	2	1			1	31
	パラインフルエンザ 1		2	4	1	5	3	1				1		17
	パラインフルエンザ 2								1					1
	パラインフルエンザ 3				4	19	16	10		1				50
	パラインフルエンザ 4												1	1
	エンテロ						2	4	3	16	12	2		39
	アデノ	10	9	5	2	10	4	4		2			1	47
	肺炎マイコプラズマ			3				3	5	4	7	7		29
	ヒトバルボ B19											1		1